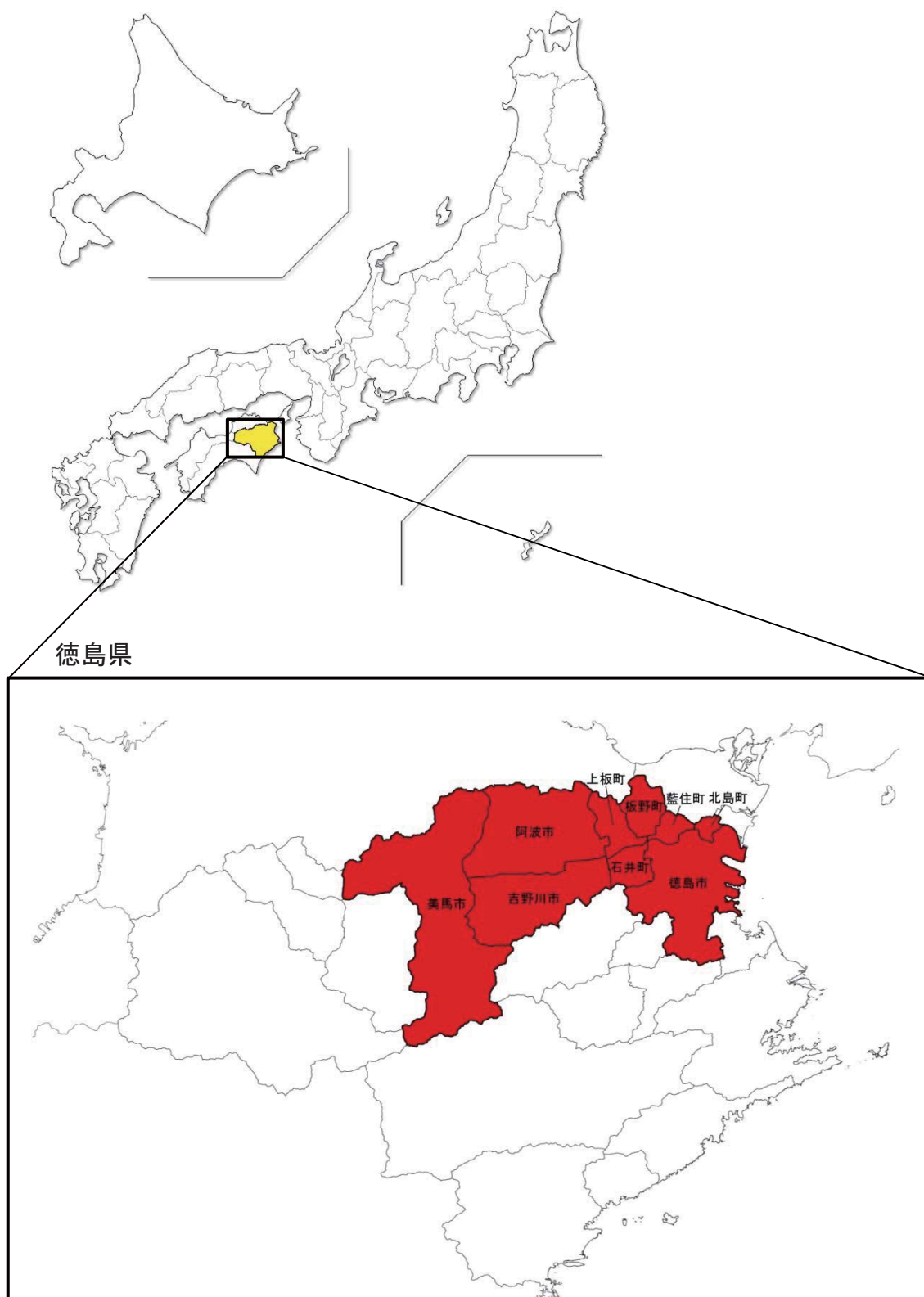


① 申請者	徳島市、吉野川市、阿波市、美馬市、石井町、北島町、◎藍住町、板野町、上板町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	あいのふるさと あわ～にほんじゅうをそめあげたしこうのあおをたずねて～		
藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
古くから日本人の生活に深くかかわり、神秘的なブルーといわれた「藍」。徳島県の北部を雄大に流れる吉野川の流域は、藍染料の日本一の産地です。この地域の平野部に見られる高い石垣と白壁の建物に囲まれた豪農屋敷や脇町の豪華な「うだつ」があがる町並み、「阿波おどり」のリズムからは藍染料の流通を担い、全国を雄飛した藍商人のかつての栄華をうかがい知ることができます。この地域では、今も藍染料が伝統的な技法で生み出されており、その色彩は人々を魅了し続けています。			
     			

※昨年度申請実績

平成30年度申請タイトル
400年の伝統の技が息づく藍の里 阿波
変更内容
・タイトルを変更した。 ・ストーリーの構成を変更するとともに、藍の流通が関連する民俗文化財の要素を追加し、厚みを持たせた。 ・構成文化財を検討し、民俗文化財を追加した。 ・地域活性化計画のうち、(2) 地域活性化のための取組の概要に阿波藍による職の創出を明確にし、そこから地域づくりにつながる面を明記した。 ・地域活性化計画のうち、(3) 自立・継続的な取組について、運営する組織の立ち上げをより具体的に明記した。

市町村の位置図（地図等）

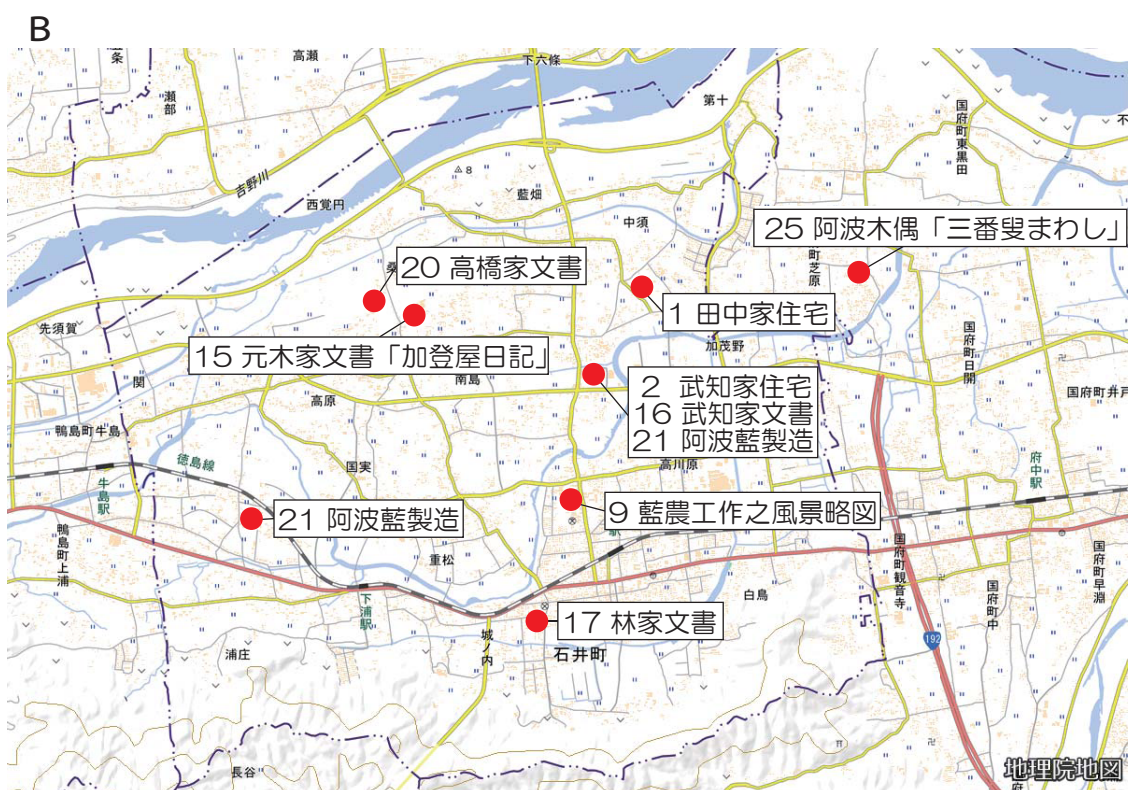


構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す。
(様式 3-1 の番号に対応させること)



※「国土地理院の電子地形図（タイル）に文化財の位置を追記」（以下のページの地図は全て同じ）

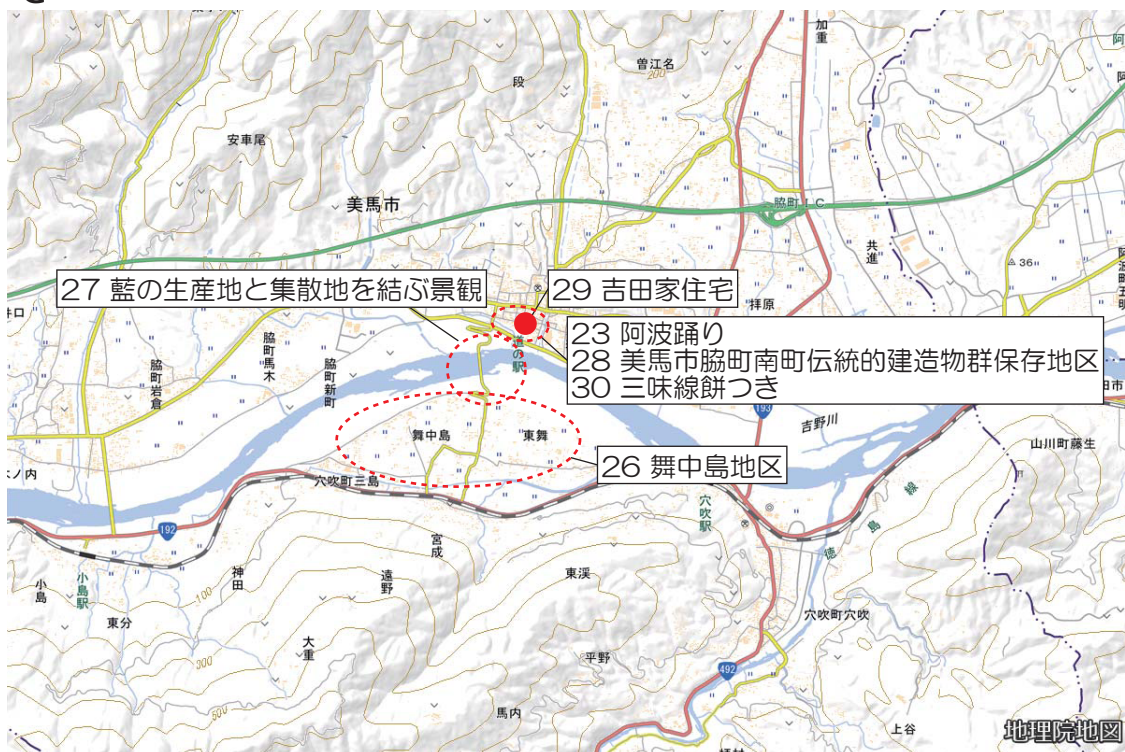




F



G



ストーリー

古くから日本人の生活に深くかわり、日本を代表する色彩である「藍」。明治時代に日本を訪れた外国人は日本中に「藍」で染められた衣服が溢れていることに驚き、「この国は神秘的なブルーに満ちた国」と絶賛しました。その神秘的なブルーを生みだしていたのが「阿波の北方」といわれる徳島県北部の吉野川流域です。この地域は日本一の藍染料の産地で、今なお途絶えることなく職人が伝統の技で藍の染料づくりを行い、日本の染織文化を支え続けている藍のふるさとです。

◆藍の里の景観と風土

徳島県北部を東西に流れる吉野川の流域では、平野部に広がる田園風景の中に、高い石垣でかさ上げされた大きな屋敷があちこちに見られます。本瓦葺きで白壁の重厚な建物に囲まれ、さながら城を思わせるこの屋敷は「藍屋敷」と呼ばれこの地域を象徴します。「藍屋敷」は江戸時代から明治時代にかけて藍染料の生産・加工・流通を担った藍師や藍商人の住居兼生業、商談の場であり、ここから多くの藍染料が日本中に送り出されました。暴れ川であった吉野川からは当時の灌漑技術では直接水を取ることは難しく、流域では稲作がほとんどできませんでした。また、たびたび起こる洪水は流域の人々に甚大な被害を与えました。しかしその反面、豊富な伏流水に恵まれ洪水によって肥沃な土壌がもたらされるこの地域は、藍の栽培に適した土地柄だったのです。



「城構え」といわれる藍屋敷



藍屋敷の主屋と庭

平安時代の終わりに阿波で栽培が始まった藍は、室町時代にはこの地域の特産となり、室町時代後半に勝瑞城下で藍染料に加工されるようになったといわれています。江戸時代に入ると、徳島藩は重要な財源として藍の生産を保護・奨励し、積極的に品質向上にも努めました。江戸時代の中頃には、全国的な木綿の普及に伴い藍染料が大量生産されるようになりました。さらに、犬伏久助が加工技術を改良したことにより、品質が高まった阿波の藍染料は「本藍」と呼ばれ全国市場での人気を独占し、販売特権を与えられた阿波の藍商人は、莫大な利益を藩にもたらしたのです。



「寝床」の軒先に吊られた舟

阿波の藍師や藍商人たちは、藍染料の買付けに来る全国各地の商人たちを最大限にもてなし、信用を得るために競って豪壮な屋敷を構え、接待に多くの金を使いました。立派な「藍屋敷」があちこちに見られるのは、こうした歴史的背景によるものです。これらの屋敷地には軒が大きく張り出した特徴的な形をした「寝床」といわれる藍染料の加工場が今も残っています。軒下には刈り取った藍の葉が運び込まれたり、洪水のときの脱出用の舟が吊り下げられたりしています。功罪相半ばする吉野川の流域で藍染料づくりの技術を受け継いできた藍のふるさとの風景です。

◆藍染料、「葉」づくりの技

阿波の北方では、江戸時代から変わることのない伝統的な藍染料づくりを今も見ることができます。初春、ツバメが来る頃に苗床に種を播き、霜が降りなくなると畑に苗を植えます。そして梅雨が明ける頃には緑一色に染まった藍畑が一面に広がります。初夏に収穫した藍の葉を細かく刻み、乾燥させ、発酵させることで藍の染料が出来上がります。加工場である「寝床」では、積み上げられた藍の葉に水を打ち、攪拌し、発酵を促す作業が秋から冬にかけて何度も繰り返されます。そこには全身全霊をかけて、美しい色

を出す藍染料を作る職人の姿があります。

藍の葉の発酵温度はやがて 60 度を超え、作業中の寝床の中はもうもうと湯気がたちこめ、暖かい空気と刺激的な発酵臭が充満します。その温度と臭いは藍染料の仕上がりを知るバロメーターとなります。そして、初霜が降りる頃、藍師の手仕事によって発酵が進んだ藍の葉は、黒い土の塊のような姿になり、藍の色素が凝縮された「^{すくも}菜」と呼ばれる藍の染料が出来上がるのです。



藍畑



藍の葉に水をかけて発酵を促す



発酵の状態を確かめる藍師

◆阿波藍の流通と繁栄

阿波の藍師が手塩にかけてつくり上げた藍染料は、徳島藩から販売権を容認された藍商人を通して、大阪・名古屋・江戸をはじめとする全国の藍市場に供給されました。それにあわせ、阿波の藍商人の活躍もまた全国規模で展開されるようになりました。藍商人たちは富を得るだけでなく、全国各地との文化交流の担い手となりました。徳島城下の盆踊りに上方で流行していた^{にわか}俄踊りが登場するようになったのをはじめ、今の阿波おどりには各地の様々な要素が取り入れられています。例えば『阿波よしこの節』は茨城県の『潮来節』が元になっているともいわれ、そこには全国に雄飛した阿波の藍商人の姿を感じることができます。

また、芸事を好み、金銭を惜しまなかった阿波の藍商人が頻繁に人形座を招いて人形芝居を楽しんだことから「阿波人形浄瑠璃」などの木偶文化が隆盛しました。今でも年明けには箱回し芸人による「三番叟まわし」が藍屋敷を訪ねて門付けを行っています。

藍の流通を担った脇町には、藍豪商が築いた「うだつの町並み」が残ります。本来防火のために作られた「うだつ」は、富を競うかのように本瓦葺の重厚な装飾がなされ、そのてっぺんでは鬼面の瓦が睨みをきかせています。格子づくりや^{しとみど}蔀戸、^{むしこまど}虫籠窓などの意匠が美しいうだつの上がつた町並みや、敷地内に船着き場までつくられた豪商の屋敷をみると、藍の集散地として栄えた当時の栄華を誇る暮らしぶりがうかがわれます。そして、年の暮には藍景気を唄う「^{あいけいき}三味線もちつき」の軽快なリズムが当時の賑わいを伝えています。



藍商人が育てた阿波おどり



藍屋敷を訪ねる「三番叟」



うだつの町並み

伝統の技によってつくられる良質の「菜」は、今も全国各地の染織家のもとに届けられ、多くの衣装が彩られています。かつて訪日外国人を魅了した「藍」の色は、東京オリンピック・パラリンピックの大会エンブレムを彩り、日本の伝統色として今また世界に発信されていきます。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
1	た な か け じ ゅ う た く 田中家住宅	国重文 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した田中家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。県下最大級の規模。	石井町
2	た け ち け じ ゅ う た く 武知家住宅	国重文 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した武知家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。大規模な寝床が特徴的。	石井町
3	お く む ら け じ ゅ う た く 奥村家住宅	県指定有形 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した奥村家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。	藍住町
4	わ り い し け じ ゅ う た く 割石家住宅	未指定 (建造物)	藍師兼藍商人として活躍した割石家の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。近代和風住宅。	阿波市
5	ふ じ た け じ ゅ う た く 藤田家住宅	未指定 (建造物)	藍による糸染めを行っていた地主である藤田家の屋敷。	北島町
6	や ま か わ ち ェ う す わ あ い や し き 山川町諏訪の藍屋敷	未指定 (建造物)	藍師兼藍商の屋敷で、「藍屋敷」と呼ばれる豪壮な民家の代表例。県内でも最大規模の寝床をもつ。	吉野川市
7	く ど う け じ ゅ う た く ち ゅ う し ん 工藤家住宅を中心とした あ い か ん れ ん ぶ ん か ざ い ぐ ん 藍関連文化財群	一部市指定有形文化財(西麻植八幡神社の陶製狛犬、両部鳥居、太鼓橋)	藍師兼藍商人として活躍した工藤家の屋敷と、工藤家が信仰し、多額の寄付をした西麻植八幡神社。また工藤家が糞や肥料を運搬するため設置した屋敷北面の西麻植駅。藍師や藍商人の活躍がうかがわれる西麻植地区の文化財群。	吉野川市
8	け ん ぼ ん ち ェ く し ェ く の う こ う ず 絹本著色農耕図 ら ん で ん か ん す い の ず 「藍田灌水之図」	市指定有形 (絵画)	藍田への灌水作業が描かれた農耕図。阿波藍最盛期の景観が窺い知られる。	阿波市
9	あ い の う こ う さ く の ふ う け い り ェ く ず 藍農工作之風景略図	未指定 (絵画)	藍づくりの工程を描いた昭和初期の絵巻物	石井町
10	け ん し ェ う じ ェ ん じ ェ 見性寺文書	町指定有形 (古文書)	鎌倉時代に藍で衣を染めた記録が記された文書が残る。	藍住町

11	しょうずいじょうかんあと および しゅごまちしょう 勝瑞城館跡及び守護町勝 瑞遺跡	国史跡 (勝瑞城館跡)	藍製造の技術が伝えられた地であり、藍が阿波の経済基盤として発展する契機となった地。	藍住町
12	とくしまじょうあと および とくしまじょうかまち 徳島城跡及び徳島城下町 あと跡	国史跡 (徳島城跡)	阿波藍の流通拠点として栄えた城下町と、阿波藍を奨励した蜂須賀氏の政治拠点。	徳島市
13	あいせんあん いぬぶしきゆうすけぞう 藍染庵と犬伏久助像	町指定有形 (彫刻)	藍染料の製法の改良に成功し、阿波藍の発展に多大な貢献をした犬伏久助。「藍久さん」の愛称で親しまれていた久助の木像が藍染庵に安置されている。	板野町
14	おくむらけもんじょ 奥村家文書	町指定有形 (古文書)	藍師兼藍商人として活躍した奥村家の経営史料。藍商人の経営の実態に迫る史料。	藍住町
15	もときけもんじょ かどやにつき 元木家文書「加登屋日記」	町指定有形 (古文書)	藍商人である元木家当主が3代にわたり、商売ほか時事などについて記した日記。	石井町
16	たけちけもんじょ 武知家文書	未指定 (古文書)	藍商人である武知家に伝わる商売などについて記された古文書群	石井町
17	はやしけもんじょ 林家文書	一部町指定 (古文書)	藍商人である林家に伝わる商売などについて記された古文書群	石井町
18	てづかけもんじょ 手束家文書	未指定 (古文書)	大地主として、また藍商人とし活躍した手束家の明治 30 年頃から大正時代にかけての経営資料。	阿波市
19	きたじまちょうしょうぞう あいかんれんもんじょ 北島町所蔵 藍関連文書	未指定 (古文書)	阿波藍の製造、販売、流通経路、品質に関する資料や、葉藍生産状況を知ることのできる資料がある。	北島町
20	たかはしけもんじょ 高橋家文書	未指定 (古文書)	藍商人である高橋家に伝わる商売などについて記された古文書群。	石井町
21	あわ あいせいぞう 阿波藍製造	国選定 保存技術	伝統的な藍染料の製造技術。	徳島市 石井町 上板町
22	あわ あいさいばいか こうようぐ いっしき 阿波藍栽培加工用具一式	国指定 重要有形民俗	藍を栽培し、藍染料を製造・加工するための道具一式。	藍住町

23	あわ 阿波踊り	未指定 (無形)	全国を雄飛した藍商人によって洗練されたものに育てあげられた徳島を代表する民俗芸能。	徳島市 吉野川市 美馬市
24	あわにんぎょうじょうり 阿波人形浄瑠璃	国指定 重要無形民俗	莫大な富を得た藍商人が庶民の娯楽として定着させた徳島を代表する民俗芸能。	徳島市
25	阿波木偶「三番叟まわし」	県指定 無形民俗	人形を箱に入れて担ぎ、家々を回って門付けを行う。藍寝床では、良質な藍染料ができることを願い、箱回し芸人が「三番叟」を踏む。	徳島市
26	まいなかしまちく 舞中島地区	未指定 (文化的景観)	吉野川の川中島で、藍の一大産地。各所に残る豪華な住居が当時の繁栄ぶりをうかがわせる。	美馬市
27	あいせいさんちしゅうさんち 藍の生産地と集散地を むすぶけいけい 結ぶ景観	未指定 (文化的景観)	吉野川をはさんで、舞中島と脇町南町を結ぶ、藍の生産から流通までの過程を彷彿とさせる景観。	美馬市
28	みましわきまちみなみまちでんとうてき 美馬市脇町南町伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国選定 重要伝統的建造物群保存地区	江戸時代中期、藍の集散地として栄えた町並み。町並みの象徴であるうだつからは、当時の繁栄がうかがえる。	美馬市
29	よしだけじゅうたく 吉田家住宅	市指定有形 (建造物)	寛政4(1792)年に創業した、藍商吉田直兵衛の屋敷。屋号を「佐直」と称し、脇町でも1, 2を争った豪藍商。	美馬市
30	しやみせんもち 三味線餅つき	市指定 無形民俗	阿波藍で栄えた頃、豪商たちが芸子たちに三味線をひかせ餅つきをしたのが始まり。	美馬市
31	あくはっこうだてあいぞめ 灰汁発酵建藍染	未指定 (無形)	阿波藍を灰汁や糞、酒、石灰や貝灰などの天然の素材によって発酵させて建てた藍液による染めの技術。	徳島市 吉野川市 阿波市 美馬市 石井町 北島町 藍住町 板野町 上板町
32	あわあいちゅうせん 阿波藍の注染	県指定無形	紺屋古庄は、阿波藍の注染を行う全国唯一の紺屋。天然染料ならではの阿波藍の魅力を発信する。	徳島市

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1. 田中家住宅



4. 割石家住宅



2. 武知家住宅



5. 藤田家住宅



3. 奥村家住宅



6. 山川町諏訪の藍屋敷



7-1.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(工藤家住宅)



8.絹本著色農耕図「藍田灌水之図」



7-2.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(工藤家住宅)



9.「藍農工作之風景略図」



7-3.工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群
(西麻植八幡神社)



10.見性寺文書



11.勝瑞城館跡及び守護町勝瑞遺跡



14.奥村家文書



12.徳島城跡及び徳島城下町跡



15.元木家文書「加登屋日記」



13.藍染庵と犬伏久助像



16.武知家文書



17.林家文書



20.高橋家文書



18.手束家文書



21-1.阿波藍製造 (定植)



19.北島町所蔵 藍関連文書



21-2.阿波藍製造 (藍畑)



21-3.阿波藍製造（藍こなし）



21-6.阿波藍製造（薬）



21-4.阿波藍製造（寝せ込み）



22-1.阿波藍栽培加工用具



21-5.阿波藍製造（寝せ込み）



22-2.阿波藍栽培加工用具



22-3.阿波藍栽培加工用具



24.阿波人形浄瑠璃



22-4.阿波藍栽培加工用具



25.阿波木偶「三番叟まわし」



23.阿波おどり



26.舞中島地区



27. 藍の生産地と集散地を結ぶ景観



28-3. 美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(屋敷地内の船着き場)



28-1. 美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(うだつの町並み)



29. 吉田家住宅



28-2. 美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区
(本瓦葺のうだつ)



30. 三味線餅つき



31-1.灰汁醃酵建藍染（藍建て）



31-4.灰汁醃酵建藍染（藍染製品）



31-2.灰汁醃酵建藍染（藍甕）



32.阿波藍の注染



31-3.灰汁醃酵建藍染（藍染製品）



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像(ビジョン)

阿波の北方は藍染料の主要産地であり、その技術は江戸時代から連綿と引き継がれている。その品質と生産量は今なお日本一を誇っており、この地域の大きな魅力である。しかし、現状では「阿波藍」に対する正しい理解があるとは言えない。

日本遺産認定を契機に、地域住民がこの地域の特徴や魅力、特有の歴史を背景とした景観、そこにあるストーリーを構成する文化財等、オンリーワンの魅力を再認識することにより、地域のアイデンティティへの気づきが促されることが期待される。そして、郷土への誇りと愛着が一層高まることによって地域の活性化につながり、今も唯一無二の藍染料を産出する徳島を強くアピールする基盤が形成され、国内はもとより海外の人々も訪れてみたいと思える地域の創造につながる。

地域を訪れてくれた人々に対しては、この地域の特徴や魅力を体験・体感できる観光プログラムや、楽しく分かりやすいICT等を活用した観光ガイドシステム等を整備するとともに、案内やおもてなしができる人材を育成することにより、高い満足度が得られる地域づくりを目指す。さらに、「阿波藍」のブランド化や、阿波藍製造の活性化や阿波藍を通じた新たな産業の創出、観光振興による消費の拡大を促進することにより、地域づくりや人づくり、仕事づくりにつなげ、持続的に発展する地域を形成する。

(2) 地域活性化のための取組の概要

①「阿波藍」関連資料の調査・研究と価値の顕在化

「阿波藍」の持つ文化的価値の正しい理解と、魅力の再発見を進めることにより、「阿波藍」が育んできた歴史や文化、技を未来に継承することを目的とする。

「阿波藍」関連資料の調査や適切な保護を進め、「阿波藍」の持つ価値の顕在化を図る。調査成果等についてはそれぞれの地域において小中学校への出前授業をはじめ、企画展示やシンポジウム等を開催することによって公開・活用する。阿波藍の持つ歴史文化遺産としての価値の正しい認識が進むことにより、徳島の誇る文化への愛着が醸成され、地域づくり・人づくりにつながる。また、観光欲望の一つである「本物との出会い」の欲求を満たすことにもつながるものと思われる。

この事業を効果的に進めるために、地域の小中学校や高等学校と連携し、地域の歴史文化の学習として取り入れてもらう。また、博物館や文書館、大学等と連携して充実した調査・研究を進める。

②「阿波藍」の情報発信拠点の整備と観光客の受け入れ環境の整備

観光客が「阿波藍」やこの地域の魅力を十分に満喫できるように、基本となる情報を発信するための拠点を整備し、ICT等を活用した観光ガイドシステム等を整備するとともに、案内やおもてなしができる人材を育成する。

情報を発信するための拠点は、歴史・文化的な情報の拠点として藍住町歴史館「藍の館」、技術的な情報の拠点として上板町「技の館」、西部地域の拠点として美馬市脇町のうだつの町並み内に整備することとし、どこに行けば何を知ることができるかを明確に理解できる工夫をする。また、それぞれの構成文化財を巡るための案内板や観光ガイドシステムを整備するとともに、観光ガイド等の案内体制の一層の充実を図る。「藍の館」では阿波藍製造から染めまでの体験プログラムを実施、その他「技の館」等でも藍染めの体験施設もあり、「阿波藍」の持つ魅力を五感で感じることでできる環境を整備する。

徳島市ツーリズム協会や徳島県観光協会、イーストとくしまには観光への誘いを積極的に行っていただき、交流人口の拡大につなげる。

③「阿波藍」の魅力や情報の発信

「阿波藍」の魅力や情報を広く国内外に発信し、ブランド力を強化する。

「阿波藍」に関するポータルサイトを開設し、伝統的な「阿波藍」の製造技術や本格的な藍染めの技術、また「阿波藍」の持つストーリーやそれらを構成する文化財の魅力を発信する。提供するコンテンツは、魅力あふれる映像を制作したり、調査研究によって知り得た新たな情報を盛り込む。また、阿波藍関連の様々なイベント情報の発信を行う等、デジタルミュージアムとして、またWEB情報掲示板として活用できるように、多くの情報量と魅力であふれるものとし、国内外の人々が訪れてみたい場所と思える情報の発信に努める。コンテンツは多言語化し、多くの方に便利な情報を提供できるようにする。

染織関係や地域の観光、他の日本遺産等、様々なサイトとリンクさせることによりサイトの認知度を上げる。

④「阿波藍」を活用した地域おこし

「阿波藍」の栽培から加工、染めまでの技術者を育成し、地域の歴史文化を活かした景観づくり、地域づくり、仕事づくりを進める。

阿波藍の栽培・加工を生業とする藍師に染の製造工程を学び、藍染めを生業とする染め師に藍染めの技法を学ぶことから、藍の製造から加工まで一貫して実施できる職人を育成する。そのことにより、伝統的な阿波藍製造技術を伝承するとともに、この地域のかつての景観であった藍畑の広がる風景を復元し、地域の特色作りに努める。かつてのこの地域の特徴であった「藍一色」の景観の復元が行われることによって、住民の地域のアイデンティティへの気づきが促され、郷土への誇りと愛着が一層高まることが期待される。同時に、地域の活性化につながり、今も唯一無二の藍染料を産出する徳島を強くアピールする基盤を形成する。このことは、国内はもとより海外の人々も訪れてみたいと思える地域の創造につながり、観光客の満足度も高くなる。さらに、職が創出されることにより、人づくりにもつながり、今後の持続可能な取組へつながる。

(3) 自立的・継続的な取組			
○実行委員会は、当初は実行委員会を構成する自治体を中心となって運営し、事業実施に関して必要な経費は、3年間は日本遺産の補助金を活用する。3年後を目途に藍住町の地域おこし協力隊及び協力隊修了者による組織を立ち上げ、以後はこの組織が中心となって実行委員会を運営する予定である。この組織は、藍染料の製造から藍染め製品の制作までを手掛け、合わせて日本遺産関連の新たな商品開発を進める等、独自の収入源を開拓する。 ○実行委員会の運営をサポートするサポーターを募集し、積極的に情報発信や観光事業、製品開発に取り組む。 ○その他、事業実施のための収入源については、実行委員会ホームページでの広告収入、観光業界と連携した観光事業による収入、地元企業や個人からの賛助金を募る等、検討を進める。 ○他の認定地域との連携し、新たな魅力・新たな観光資源の創出を図る。			
(4) 実施体制			
〔協議会の名称〕 藍のふるさと魅力発信事業実行委員会 〔構成団体〕 徳島市（教育委員会 観光課 経済政策課） 吉野川市（教育委員会 企画財政課 商工観光課） 阿波市（教育委員会 商工観光課） 美馬市（教育委員会 観光課） 石井町（教育委員会 産業経済課） 北島町（教育委員会 まちみらい課 図書館・創世ホール） 藍住町（教育委員会 経済産業課 企画政策課） 板野町（教育委員会 産業課） 上板町（教育委員会 産業課） （一財）徳島県観光協会、（一社）美馬観光ビューロー、北島町商工会、（一社）藍住町観光物産協会、（一社）ジャパンプルー上板、阿波藍製造保存協会、イーストとくしま観光推進機構			
当面の体制 当面は、構成団体が中心となって日本遺産関連の補助金を活用して事業を進める。 3年後を目途 ・サポーター養成講座等を開催することにより実際に事業を進めていく人材を育成。 ・実行委員会の中心となる組織を藍住町地域おこし協力隊や協力隊修了者によって構成。 以後は、サポーターと実行委員会の運営組織及び構成団体が密に連携を取りながら、情報と課題の共有を図れる体制づくりを進める。構成団体には観光協会や地域のDMO等も加わっているが、これらの方々には事業の具体的内容の企画等のアドバイスをいただくこととする。最終的には日本遺産ブランドを活用した自立した体制を構築することを目指す。			
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	○日本遺産の取組により住民の地域理解が進み、地域のアイデンティティの再認識が進められる。そのことにより、地域を形成してきた歴史や文化財の重要性の認識が進み、阿波藍及び阿波藍を取り巻く構成文化財の継承への取組が骨太になることが期待される。 ○阿波藍の価値の顕在化を図り、訪れたい場場の形成、情報の発信をすることにより、地域住民だけでなく観光客の満足度も向上し、交流人口が拡大するなど、阿波藍のふるさとの活性化が期待される。 ○衰退する藍産業が復活することにより地域の懐かしい風景が復活し、地域のアイデンティティを取り戻すことにつながる。ひいては、地元住民の地域愛の醸成につながり、地域の連帯感の高まりが期待されます。		
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり	
事業費：	平成31年度：	40,000千円	平成32年度： 20,000千円 平成33年度： 9,500千円
(7) その他事業		別紙③のとおり	

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	拠点施設（藍住町歴史館「藍の館」）の観光客数
関連事業：	（６）①、②、③、④、⑧
目標値：	平成 29 年度 34,000 人 ⇒ 平成 36 年度 50,000 人
設定根拠：	毎年、ほぼ横ばいの入館者数に対して、日本遺産に認定された効果や事業を進めた効果、他の施設と連携した相乗効果をを勘案して毎年10%の増加を設定。
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	拠点施設（上板町「技の館」）の観光客数
関連事業：	（６）①、②、③、④、⑧
目標値：	平成 29 年度 10,000 人 ⇒ 平成 36 年度 15,000 人
設定根拠：	毎年、ほぼ横ばいの入館者数に対して、日本遺産に認定された効果や事業を進めた効果、他の施設と連携した相乗効果をを勘案して毎年10%の増加を設定。
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	拠点施設（美馬市「うだつの町並み」）の観光客数
関連事業：	（６）①、②、③、④、⑧
目標値：	平成 30 年度 200,000 人（目標値） ⇒ 平成 36 年度 250,000 人
設定根拠：	「うだつの町並み再生戦略」等を進めており、美馬市観光行政ビジョンでは入込客数は５％の伸びを目標としている。これに日本遺産認定の効果を加え、５年間順調に伸びることを想定。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	アンケート調査により、地域文化に誇りを感じる住民の割合を調査する。
関連事業：	（６）⑤、⑥、⑨、⑩
目標値：	平成 31 年度 100 ％ ⇒ 平成 36 年度 200 ％
設定根拠：	現時点の割合は不明であるが、日本遺産に認定され、情報発信を行うことによって多くの方々に地域文化に誇りを持ってもらえるように努める。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	日本遺産の知名度
具体的な指標：	藍染めを体験したことにある地域住民の数
関連事業：	（７）②
目標値：	平成 31 年度 80 ％ ⇒ 平成 36 年度 80 ％
設定根拠：	現時点での割合は不明であるが、５年後には８０％程度の方が藍染めを体験し、地域文化への理解を深めてもらえることを目指す。

設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産への協力者数
具体的な指標：	実行委員会運営のサポーター数
関連事業：	(6) ⑦
目標値：	平成 31 年度 10 人 ⇒ 平成 36 年度 20 人
設定根拠：	日本遺産魅力発信事業で10名程度のサポーターの養成を見込んでおり、その後の自主活動によって5年間で年間2名程度のサポーターの増加を目指す。
設定目標Ⅳ：	日本遺産認定による地域文化の再生
計画評価指標：	藍産業の活性化
具体的な指標：	藍住町における藍の作付け面積の増加
関連事業：	(7) ①
目標値：	平成 31 年度 5,000 m ² ⇒ 平成 36 年度 25,000 m ²
設定根拠：	平成31年度には5,000m ² の藍畑が作られる予定であり、その後地域の農家の方々の協力を得て5年で5倍程度の面積に増加することを目指す。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

（６）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	拠点施設整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	28,000千円	平成32年度：	千円	平成33年度：
事業概要：	「阿波藍」の認知度を高めるとともに、観光客等が構成文化財を周遊するきっかけとなるように地域の魅力や情報を発信するコーナーを既存内の一部に整備する。				
具体的な指標：	日本遺産関連施設への入込数				
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 36 年度	150 %
事業②：	案内板作成事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度：	4,000千円	平成32年度：	8,000千円	平成33年度：
事業概要：	平成31年度には主要箇所の案内板を設置。 平成32年度にはモデルルートを踏まえた案内板、文化財調査を踏まえた説明板を設置。				
具体的な指標：	日本遺産関連施設への入込数				
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 36 年度	150 %
事業③：	案内マップ作成事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	千円	平成32年度：	1,000千円	平成33年度：
事業概要：	日本遺産構成文化財を巡るモデルルートを作り、案内マップを作成する。				
具体的な指標：	日本遺産関連施設への入込数				
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 36 年度	150 %
事業④：	観光ガイドアプリの開発事業				
事業区分：	公開活用のための整備・情報発信		事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	千円	平成32年度：	8,000千円	平成33年度：
事業概要：	日本遺産構成文化財を巡るモデルルートを案内するＩＣＴを活用した多言語対応の観光ガイドアプリを作成する。ホームページや案内板ともリンクしたものとし、ＡＲやＶＲ機能も用いて多くの情報を移動先で得られるようにする。				
具体的な指標：	観光客の満足度				
目標値：	平成 32 年度	50 %	⇒	平成 36 年度	80 %

事業⑤：	ポータルサイト構築事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	平成32年度：	2,000千円	平成33年度：	
事業概要：	阿波藍に関する多言語対応のポータルサイトの構築。				
具体的な指標：	ホームページの閲覧数				
目標値：	平成 32 年度	10,000 回	⇒	平成 36 年度	50,000 回
事業⑥：	ブランド力強化のための映像作成事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 33 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	平成32年度：		平成33年度：	5,500千円
事業概要：	阿波藍の魅力発信のための動画の制作。制作した動画はホームページにアップする。				
具体的な指標：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数）				
目標値：	平成 33 年度	10,000 回	⇒	平成 36 年度	50,000 回
事業⑦：	サポーター養成事業				
事業区分：	人材育成		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度：	1,000千円	平成32年度：	500千円	平成33年度：
事業概要：	実行委員会の運営をサポートしたり、日本遺産の構成文化財を訪れる観光客等をガイドする人材を育成する。				
具体的な指標：	講座終了者の後年度活動者数				
目標値：	平成 31 年度	10 人	⇒	平成 36 年度	20 人
事業⑧：	スタンプラリー				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 33 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	平成32年度：		平成33年度：	3,000千円
事業概要：	作成した案内マップやガイドシステムを活用したスタンプラリーを開催し、観光誘客に努める。				
具体的な指標：	日本遺産の認知度				
目標値：	平成 31 年度	50 %	⇒	平成 36 年度	80 %
事業⑨：	写真コンテスト				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：	平成32年度：	500千円	平成33年度：	
事業概要：	阿波藍に関する写真コンテストを開催し、魅力ある景観の発見につなげるとともに、ポスターやチラシに活用し、魅力発信につなげる。				
具体的な指標：	日本遺産の認知度				
目標値：	平成 31 年度	50 %	⇒	平成 36 年度	80 %

事業⑩：	P Rポスター・パンフレット作成				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 33 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度：		平成32年度：		平成33年度： 1,000千円
事業概要：	写真コンテストで入賞した作品を利用して、阿波藍の魅力発信のためのポスターやパンフレットを作成し、ポスター展を開催する。				
具体的な指標：	日本遺産の認知度				
目標値：	平成 31 年度		50 %	⇒	平成 36 年度 80 %
事業⑪：	文化財調査研究事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 年度
事業費：	平成31年度： 7,000千円		平成32年度：		平成33年度：
事業概要：	阿波藍に関する古文書等の阿波藍関連資料の調査研究を進める。調査成果については企画展の開催、新たなコンテンツの作成等広く公開活用する。				
具体的な指標：	調査成果からのコンテンツ制作数				
目標値：	平成 31 年度		3 件	⇒	平成 36 年度 6 件

様式 4（別紙③）

（７）その他事業

事業①：	地域おこし協力隊			
実施主体：	藍住町、上板町、美馬市	事業期間：	平成 24 年度	～ 平成 年度
事業概要：	自治体の委嘱を受けた隊員が一定期間以上、阿波藍製造業に従事し、地域力の維持・強化に資する。			
事業②：	とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略			
実施主体：	徳島市、藍住町、上板町	事業期間：	平成 28 年度	～ 平成 32 年度
事業概要：	藍関連製品の開発や藍を活用した観光誘客、藍農家の育成に取り組むとともに四国経済産業局と連携した藍関連産業の育成。			
事業③：	藍生産・製造技術者養成研修事業			
実施主体：	民間団体：阿波藍製造技術保存会	事業期間：	昭和 53 年度	～ 平成 年度
事業概要：	藍製造技術伝承者の養成や、記録の作成及び刊行、原材料並びに用具の確保を行う。			
事業④：	阿波和紙を用いた藍染めの技術研究及び製品開発			
実施主体：	民間団体：（一財）阿波和紙伝統産業会館	事業期間：	平成 元 年度	～ 平成 年度
事業概要：	阿波和紙を用いた藍染めの技術研究や製品開発のほか、葉藍の栽培や染料の試作等を実施。			
事業⑤：	とくしま地域資源活用支援事業			
実施主体：	徳島市	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 年度
事業概要：	阿波藍の商品開発の支援や、徳島の藍産業・製品に対するブランディングによる地域経済の活性化を図る。			
事業⑥：	農商工連携等支援事業			
実施主体：	徳島市	事業期間：	平成 28 年度	～ 平成 32 年度
事業概要：	食用藍の生産に対する農業支援を通じ、藍の多角的な商品化を背景に、藍の生産体制の強化による阿波藍の生産振興を図る。			
事業⑦：	「大人の社会塾」を中心とした人材育成による地域活性化事業			
実施主体：	民間団体：（一財）ジャパンプルー上板	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 32 年度
事業概要：	藍の栽培から染料づくり、藍建て、藍染めまでの藍に関する一連の流れを学ぶ。			
事業⑧：	四国大学研究ブランディング事業（SUBARU事業）			
実施主体：	四国大学	事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 33 年度
事業概要：	阿波藍文化の伝承や栽培・染織技術の開発に取り組み、藍文化の継承、産業振興に携わる人材育成を図る。			
事業⑨：	「阿波藍」魅力創造発信プロジェクト			
実施主体：	徳島県	事業期間：	平成 年度	～ 平成 年度
事業概要：	藍産業の活性化による経済の好循環を構築し、物産の振興をはじめ誘客の促進等観光振興につなげる。			
事業⑩：	藍・食藍総合推進事業			
実施主体：	徳島県	事業期間：	平成 年度	～ 平成 年度
事業概要：	・阿波藍の認知度を向上させる。 ・伝統産業の継承と新たな挑戦による利用拡大を目指す。			

事業⑪：	「農福連携とくしまモデル」構築事業				
実施主体：	徳島県	事業期間：	平成	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	藍師が求める藍増産のニーズと障がい者就労支援施設の農業参入のニーズをきめ細やかにマッチングさせ、農福連携の藍モデルを構築する。				
事業⑫：	「藍×LED」ブルーとくしま創生事業				
実施主体：	徳島県	事業期間：	平成	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	産官学の「コンソーシアム」を創設し、開発・発信・販路開拓に関する事業を展開することにより、本県の藍・LED関連産業全体の活性化に取り組む。				
事業⑬：	6次産業化実践教育ステップアップ事業				
実施主体：	徳島県	事業期間：	平成	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	地域資源に気付き、新たな産業の創出、地域活性化を担う人材を育成する。				
事業⑭：	勝瑞城館跡整備事業				
実施主体：	藍住町	事業期間：	平成 19	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	国史跡勝瑞城館跡の保存・整備事業。				
事業⑮：	脇町南町伝統的建造物群保存地区保存修理事業				
実施主体：	美馬市	事業期間：	平成 元	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	重要伝統的建造物群保存地区である「うだつの町並み」の保存修理事業。				
事業⑯：	国指定田中家住宅管理事業				
実施主体：	石井町	事業期間：	平成	年度 ～ 平成	年度
事業概要：	藍屋敷の国指定田中家住宅の継続的な維持管理・小修理を行う。				